

# 対象は39〜56歳の男性 4月から無料風疹予防接種

かつて5、6年ごとに流行を繰り返していた風疹（ふうしん）が、昨年半ばから再び全国的に流行しています。過去に予防接種を受けた機会がない働き盛り世代の男性が、現在の感染患者の主集団となっています。放つておいても軽快してしまう子供の病気と思われがちですが、それがどんなリスクを引き起こしているのか、風疹の問題と対策についてお話しします。

風疹は、感染してもほとんどが無症状もしくは軽症で、昔は『三日はしか』と呼ばれていました。3日間程度で軽快してしまうので、医療機関を受診しないことも多い病気です。

流行に伴う一番の問題は、妊娠20週までの免疫のない妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんに「心疾患」「難聴」「白内障」を3大症状とする「先天性風疹症候群（CSR）」という障害を引き起こす恐れがあることです。

妊娠1カ月なら半数以上、

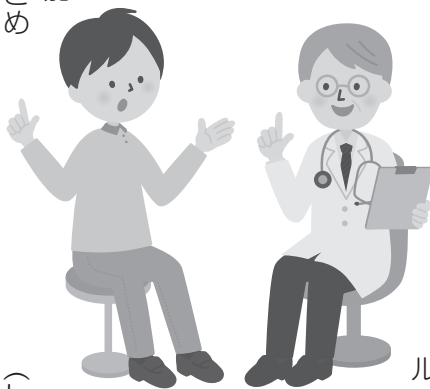
妊娠2カ月なら3分の1以上の確率で危険性があります。三大症状のほかに「網膜症」「糖尿病」「発育遅延」「精神発達遅滞」「小眼球」など多様な障害が起ることがあります。

厚生労働省は「風疹に関する特定感染症予防指針」（平成26年3月28日）において、「CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風疹の排除」を目標にしています。

2014年以降、CSRの報告はなかったのですが、今年1月に1例報告があり、

昨年までの流行で目標は遠のきました。そのため厚生労働省では昨年12月に追加的対策をまとめました。『1979

（昭和54）年4月2日以前に生まれた男性』（国内誕生の場合）は、現在『39〜56歳』の男性です。過去に風疹の予防接種を1回も受けておらず、風疹の免疫を持っていない状態を示す抗体



の数値が低い場合、3年間原則無料で、全国で予防接種を実施する方針を決めました。

先に抗体検査を無料実施し、風疹に対する免疫力が不足している人にワクチンを受けられるようになります。

## 生まれくる子を守るために

風疹は、風疹ウイルスの感染によって起こる感染症です。感染から2〜3週間の潜伏期の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（しゅちよう）

という3徴候が出現します。しかし発熱の出現は患者の半数程度、発疹も同様の皮膚症状を起こす病気と鑑別がつきにくく、症状が出現しない不顕性感染も15〜30パーセント程度あります。

インフルエンザウイルスよりも感染力が強く、一人の感染者が周囲7〜9人に感染させるので、過去にかかったことのない人、予防接種を受けてない人がいる場合は、知らずに感染してしまうこととなります。

風疹を疑って検査しても、結果が出る頃には軽快しており、発疹が出る1週間前後にウイルスを排出するため、発疹が出現した段階で既に他人に感染させている可能性があるのです。今回対策の対象となっている世代の男性には、抗体検査の無料クーポンを配る予定です。無料で抗体検査を受け、抗体が不足している状態であれば、無料の予防ワクチン接種を受けてください。

風疹は予防接種で防げる病気の一つです。町内の妊婦さんが風疹にかかることのないように、生まれ来る新しいいのちの子に障害が起きないように、親世代として務めましょう。